

「おばあちゃんからの嫁入り道具」

匿名希望

「ご縁があつて、今年初めて『茶事』というものにお誘いいただいた。参加します！」と伝えてから詳しく聞くと、夏物の着物の準備が必要とのこと。「着物って季節関係あつたん？」と初めて知る。子どもの七五三や入学式に、母親の嫁入り道具である着物を何度か借りたことはあり、でも流石に夏物は無いだろうと、母に訊いてみると、「あるよ。」とあっさり。「えーあるのー！」と驚いたのはまだ序の口、いつも見慣れている桐箆笥からは夏物どころか、何着も様々な種類の着物や小物が出てきた。驚いている私に「昔は嫁に行くときはこんだけ親が用意するのが普通やったんよ。着物でローン組む人もいたくらい」と母は言った。もう亡くなっている祖母の顔が浮かんだ。「節約、大変やったんちゃうん？」と私が言うと「おばあちゃんもずっと働いてたからな。」と共働きだったことを初めて知った。私の記憶に残っているおばあちゃんの姿から「これくらいは用意せなよー！」という声が聞こえてきそうだ。箆笥の中の着物は何着も仕立て糸がついていたほど、母は嫁いでからほぼ着物は着ていない。その眠っていた着物に袖を通すことができ、嬉しかった。まるで、おばあちゃんから私に嫁入り道具を渡してくれたような感覚になり、急におばあちゃんに感謝の気持ち湧いてきた。ありがとう、おばあちゃん。